

<戦時下の道具>

— ラジオ —



(表)



(裏)

ラジオ (縦型四球P-41 型昭和初期) / 岡崎むかし館蔵

ラジオ放送は1925年(大正14)に始まりました。現在のようにテレビがない時代、ラジオから流れる流行歌や落語、スポーツ中継などの多彩な放送内容は、当時の家庭娯楽の中心でした。

戦時下においても、ラジオは貴重な情報源として活躍します。しかし、1941年(昭和16)になると戦争に向けての国民精神総動員の手段として、ラジオは利用されるようになりました。国民精神の昂揚、国民思想の啓発のために「一億一心はラジオから」とさかんにラジオの普及が宣伝されました。この頃の報道は、内閣情報局に制限され、敗退が続いても勝利の報道しかされませんでした。

そして、1945年8月15日正午に昭和天皇みずから戦争終りを国民に告げた、いわゆる玉音放送がラジオで放送され、国民は敗戦を知りました。

さて、ラジオといえば、軽快なピアノ伴奏のリズムで始まるラジオ体操。ラジオ体操は「国民保健体操」として1928年(昭和3)天皇即位の記念行事として始まりしました。1951年(昭和26)に、今のラジオ体操第一の放送以来、「いつでも、どこでも、だれでも」気軽にできる健康法として親しまれています。

そのラジオですが、現在ではコミュニティラジオやインターネットラジオのように放送も多様化し、また、災害時の情報を伝える手段として改めて重要視され、今でも私たちの生活に身近な存在です。



ラジオ (放送局型第123号受信機青電社1942年)

/ 岡崎むかし館蔵

<参考文献>

- ・『日本大百科全書』小学館1986年
 - ・羽島知之『戦時下の暮らし』麻布プロデュース, 2004年
 - ・「ラジオ体操・みんなの体操」(株)かんぼ生命保険
- (http://www.jp-life.japanpost.jp/aboutus/csr/radio/abt_csr_rdo_index.html) 2012.07.06